

ピンク色の範囲と連想

Color Ranges and Associations of Pink

宮田久美子 Kumiko Miyata

常磐短期大学 Tokiwa Junior College

Keywords: ピンク, 三属性による色の表示, 連想語

1. はじめに

ピンクという色名は一般によく用いられているが, それではどのような色を「ピンク」色といっているか. 漠然とピンク色の範囲の見当はつくであろうが, 「これがピンク色」「これらもピンク色」の個人による差異の有無を追究する. 先行文献¹⁾には, “ニュアンスの異なるピンク12色”を提示し, その中から“恋するピンク”“勝負ピンク”を選択させた調査(10RP, 7.5RPの各3色, 5RPの4色, 2.5RP, 10Pの各1色, “ ”: 文献中の使用語)がある. 本研究では, 調査者が多数の色票から自由に「これがピンク色」, 「これらもピンク色」を選択し, その結果からピンク色を解明する. また, 色名「ピンク」からの連想語の結果も示す.

2. 方法

色票「BASIC COLOR 140」(140色: 有彩色130色, 無彩色10色, 各B6判)の140色を調査者が各自持ち, ①「これがピンク色」1色, ②「これらもピンク色」(①以外で)全てを自由に選ぶ調査を行う. また, ①と②に先行して色票を見ずに, 色名「ピンク」から連想される具象語と抽象語を各一つ自由記載させる. 調査者は, 美術系大学女子200名, 同男子56名, 教養系短大女子76名, 合計332名の20代前半までの日本人で, 以下各々A, B, C群と称す.

3. 結果および考察

① これがピンク色

3群別に集計した結果, 最もピンク色の色数は, A:9, B:7, C:7となり各群間には強い相関があった. 3群の平均値を図1, 表1に示す. 表1より1位は5RP6/10(明るい赤紫):65.0%, 2位は5RP8/6(うすい赤紫):22.2%, これらの合計は87.2%で, 色相赤紫RPの中明度・高彩度, 高明度・中彩度の色であった. また, 3位以下は3%未満で, 色相は, RP(4色の合計7.7%), 赤R(3色の合計5.1%)となり, 紫P, 黄赤YRは全くなく, RPが殆どを占めた.

② これらもピンク色

「これらもピンク色」を140色から全て選出させた結果, 3群とも一人当たり約6色をあげた. 3群の出現率の平均値が5%以上の16色の選択率の各群間には相関があった.

表1には, 3群平均値(5%以上), 16位までの色を示す. 表1より色相をみると, RPが1, 2, 3位, そして6, 8, 9, 11, 15位も占める. 次にRが4, 5, 7, 10位, Pが12, 13, 16位に上がり, YRは14位に入る.

①と②は重複選択されず, ①1位の5RP6/10は②では9位, ①2位の5RP8/6は②では3位, ①と②の合計選択率は, 夫々93.7%, 88.7%となり, これら2色を殆どの人がピンク色とみなしていた.

また, ①に登場した9色は, 順位は異なるが②の上位9色と全く同色である. 上位9色(選択率20%以上)の色相RP, Rの明度と彩度との関係を図2-1 RP, 図2-2 Rに示す. RPは, 高明度・低彩度(vp トン), 中明度・中彩度(sf), 高明度・中彩度(pl), 中明度・高彩度(lt, vv)の6色, Rはlt, vp, pl トンの3色であった.

③ 色名「ピンク」からの連想(具象語, 抽象語)

具象語は群間に強い相関があった. 出現率の平均値2%以上の具象語を図3-1に示す. 桃は果物を指すが, 桃(37.4%)が圧倒的に多く, 桜, 豚と続く. 文献²⁾(2005年調査)でも桃(39%)が1位である.

抽象語の群間の相関は, A・B:相関あり, A・C:弱い相関, B・C:殆ど相関なしであった. 抽象語(図3-2)は全て25%以下, 各群の差も大きい. 可愛い, 恋, 恋愛という上位は, 文献²⁾とも同じであった.

調査者に偏りはあるものの, 本研究から, 「これがピンク色」, 「これらもピンク色」は3群間の差は殆ど無い事が分かり, 5RP6/10がピンク色であり, 5RPの9/2, 6.5/6, 8/6, 5Rの6.5/10, 9/2が, これらもピンク色であると明示できた.

参考文献

- 1) JAFCA 「恋するピンク」と「勝負ピンク」vol.1(2009), vol.2(2011)
- 2) 宮田久美子(2014)「暮らしの中の色彩学入門」新曜社, p.49

表1. ピンク色

